オーディオ実験室収載

STAGE+を楽しむ(118)(HP 収載)
―ブラームスのヴァイオリンとチェロのための二重協奏曲―

１．始めに

前報(117)に引き続き、STAGE+のブラームスのヴァイオリンとチェロのための二重協奏曲の演奏の試聴を実施します。

２．試聴音源

今回は、ブラームスのヴァイオリンとチェロのための二重協奏曲の演奏を選びました。

収録配信 2024 年 1 月 14 日 4:00

バティアシュヴィリ＆G.カピュソン、メータによるオール・ブラームスの
コンサート

ミュンヘン・フィル

再配信 2024 年 1 月 14 日 10:00

再配信 2024 年 1 月 14 日 20:00

ミュンヘンのイザールフィルハーモニー（※ガスタイク改築の間の代替施設）から収録配信で、ズービン・メータが指揮するミュンヘン・フィルの「オール・ブラームス」コンサートをお届けします。前半は、リサ・バティアシュヴィリ（ヴァイオリン）とゴーティエ・カピュソン（チェロ）の人気ソリストを迎えたブラームスの二重協奏曲です。この曲はチェリストのロベルト・ハウスマンと旧知のヴァイオリニスト、ヨーゼフ・ヨアヒムと共に初演され、ブラームスが仲違いしていたヨアヒムと和解するきっかけになった作品として知られています。後半は最後の交響曲であり、いちばんブラームスらしいと言われる最高傑作の第 4 番で、二重協奏曲との相性も絶妙です。

ソリスト:

ゴーティエ・カプソン（チェロ)、リサ・バティアシュヴィリ（ヴァイオリン)

演奏:

ミュンヘン・フィルハーモニー管弦楽団

指揮:

ズービン・メータ

曲目

ヨハネス・ブラームス　ヴァイオリンとチェロのための二重協奏曲イ短調 op. 102
　　リサ・バティアシュヴィリ(ヴァイオリン)

ゴーティエ・カプソン(チェロ)

ヨハネス・ブラームス　交響曲第 3 番ヘ長調 op. 90

３．試聴の経過

前回に引き続き、スピーカーアキュライザーの位置を変更し、スピーカーアキュライザーからのバイワイアリングケーブルにケーブルチューナーを装着し、ルーター→スイッチングハブ→PC の 2 本の LAN ケーブルに LAN アキュライザーを使用しています。さらに、スイッチングハブに光城精工の仮想アース Crstal EpL を接続し、ルーターに自作の仮想アースを接続しています。

1 月 14 日 10:00 からの再配信を試聴しましたが、受信は安定していました。

ブラームスのヴァイオリンとチェロのための二重協奏曲はお馴染みの曲です。

カプソンのチェロもバティアシュヴィリのヴァイオリンもボウイングの生々しさが伝わってきます。チェロとヴァイオリンの穏やかな対話であったり緊張感を示したりという展開をメータ指揮のミュンヘン・フィルハーモニー管弦楽団が暖かく見守るという構成がしっかり捉えられています。

おなじく交響曲第 3 番もお馴染みの曲で、セガンのバーデン・バーデン祝祭劇場の演奏を STAGE+で聴いたばかりです。メータは着席したまま、淡々と指揮していますが、セガンのバーデン・バーデン祝祭劇場の演奏より音の響きもよく、重量感のある演奏です。

ちなみにセガンのバーデン・バーデン祝祭劇場の映像と比べてみますと、ホールの大きさや編成もメータのミュンヘン・フィルの方が大きいようで、こういったことが音に現れているようです。

バーデン・バーデン祝祭劇場

ミュンヘン　イザールフィルハーモニー

４．まとめ

LAN アキュライザーと Crstal EpL の効果により、ヴァイオリンとチェロのための二重協奏曲では、カプソンのチェロもバティアシュヴィリのヴァイオリンもボウイングの生々しさが伝わってきました。交響曲第 3 番は、響きもよく重量感のある演奏です。セガンのバーデン・バーデン祝祭劇場の映像と比べてみますと、ホールの大きさや編成のスケールが音の違いに反映されているようです。

以上